

かみこうやしらはた
八千代市 上高野白幡遺跡

検出された遺構(いこう)は、弥生時代中頃の竪穴(たてあな)住居跡が 5 軒、縄文時代の土坑(どこう)が 1 基です。竪穴住居跡はいずれも宮ノ台期(約 2,000 年前)のもので、住居の形は 7m×6m 程度の楕円形をしています。調査地内は、後世の造成や耕作の影響をほとんど受けていないため遺構の残りが大変良好で、土器などの遺物も多く出土しました。

今回の調査は遺跡範囲のごく一部でしたが、宮ノ台期の大規模な集落が台地上に広がっていることが想定できます。



土器の検出



頸の長い壺(上下逆さ 頸→首)



竪穴住居跡(溝の内側が床面、穴は屋根を支える柱の穴)